

場田崎線の道路計画は。



川内駅東口

答弁 区画整理事業は平成十九年度で、概ねの造成を終える予定で、あと一年は東口駅前広場等の付帯設備等を整備したい。東口への道路整備については、まず、第一に横馬場田崎線を九州新幹線全線開通に併せ、九州新幹線交差部の区間二百六十メートルの整備を急ぎたい。平成通線・平佐加治屋馬場線の延伸については、沿線住民の意向等地域の実情及び他の事業の進捗状況を踏まえ、財政面も考慮しながら、整備手法について検討したい。県道川内祁答院線については引き続き整備の要望を行う。東郷地域・樋脇地域方面からの川内駅東口へのアクセスは、県道山崎川内線から平佐加治屋馬場線を通して平成通線に誘導したい。

少子・高齢化社会への対応策について



永山 伸一

質問 本市の定住人口の増加、人口減少に歯止めをかけるには、乳幼児医療費助成のさらなる拡充、保育所の待機児童対策、無認可保育所への支援、幼児教育の充実を図るための幼保一元化など安心して子どもを産み育てられる環境整備への施策展開が必要と考えるが、現状と今後の取組は。

答弁 乳幼児医療の助成事業は平成十九年度から三歳未満児の自己負担分を全額助成することとし、今後は実績や財政等を勘案し対処したい。保育所の待機児童対策は、通常保育事業で現在の千七百三十人枠を二十一年度までに千八百五十枠とする目標計画を立てている。無認可保育園については、設置基準を確認し、基準を満たすものであれば、県へ認可申請の意見書を提出したい。幼保一元化については、認定子ども園の事業がスタートしたところであり、それらに取り組み幼稚園、保育園には支援をしなければならぬと考えており、新しい施策等についても色々な角

度から検討をさらに進めて行く。

多重債務者が気軽に相談できる窓口強化を



井上 勝博

質問 多重債務の背景に貧困と格差の問題がある。奄美市は多重債務者が気軽に相談できる窓口を設けて、弁護士や司法書士会との連携を強め、多重債務者の生活再建自立まで援助している。薩摩川内市でも奄美市に学んで多重債務者の救出に積極的に取り組む気はないか。

答弁 本市においても、奄美市も参考にしながら、多重債務者に対する相談業務をしっかりとやっていかなければならない。弁護士等と十分連携をとるとともに、積極的に相談が受けられるよう職員の資質向上を図って参りたい。

スポーツ少年団の体育施設に係る使用料の減額措置について



種田 弘二郎

質問 青少年育成におけるスポーツ少年団の役割は大きく、本市総合計画にも記載されている。しかし、スポーツ少年団が活動する中で市の体育施設の使用料の負担が相当額にのぼっている。薩摩川内市体育施設条例施行規則第八条第一項第四号の規定により減額してスポーツ少年団等育成の一助とする考えはないか。

答弁 昨年の十二月に使用料・手数料について見直しを行ったところであり、スポーツ少年団についても受益者の負担原則に基づき施設使用料を払っていただいている。よって、減免規定もあるが、簡単に使うことはできないので、具体的にどういう場合に、減額、免除ができるか、平成十九年度で研究して、できるだけ早い機会に結論を出したい。

福祉施策（民生委員・児童委員の改選）について



上野 一誠

質問 民生委員・児童委員の方々には、社会奉仕の精神をもって、常に住民の立場に立って相談に応